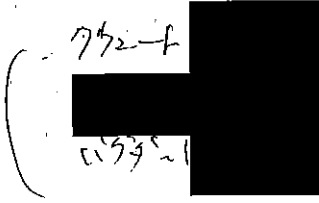




陸軍支援隊
「アクト」
PL 支援隊

PL 支援隊 (2007年 8月 20日)
→ PL 支援隊



支隊可部

イラク復興支援群活動報告

甚急
今世の?

7/16
1430 33 17日 宿舎内 約20名
1A00 (17日) 17日 17日 17日

18. 7. 17

イラク復興支援群

7月16日
17日 1100 (17日) 17日 17日
17日 1030 (17日) 17日 17日

報告項目

- 1 全般
- 2 人員、装備の状況
- 3 明日の活動予定

全 般 (18年7月17日)

- ◎ 群主力
 - 人員・武器・装具異状なし
 - 撤収業務関連
 - ・ 後送車両の輸送 (35両)
 - その他
 - ・ 群帰国第1波クールダウン
- ◎ 後送業務隊
 - ・ 後送車両受け入れ (35両)
 - ・ █████ 倉庫におけるコンテナの開梱 (8本)
 - ・ █████ 倉庫におけるコンテナ詰め (6本)
 - ・ PWC洗淨施設における後送車両の点検及び洗車 (1次洗淨6両、2次洗淨6両)
 - ・ ナビスタ通過支援
 - ・ 防衛庁長官CV視察支援 (報道対応)
 - ・ 群離脱第5波出迎え
 - ・ 群帰国第1波アリフジャン研修支援
 - ・ 群帰国第1波機内預荷物回収
 - ・ 大使館夕食会参加 (隊長)

撤収関連業務 成果 (7月17日)

区分	業務内容
コンテナ 作成	
処分	
輸送	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">物品後送</div> ● 車両後送 : 35両

撤収の進捗状況 (クウェート)

区分	計 画		実 績 (c)	進捗度		残数	備考
	総 数 (a)	当該日迄 (b)		総数比 (c/a)	計画比 (c/b)		
コ ン テ ナ	開梱 (コンテナ数)	337	145	150 【5】	44.5%	103%	187
	コンテナ詰 (点数)	集計中	688	8463 【688】	—	—	—
	後送 (点数)		0	7412 【0】	—	—	—
車 両	洗浄	230	62	62 【6】	27%	100%	168
	後送		0	0 【0】	0%	0%	230

※ 点数については、弾薬を除いた点数
【 】内は当日の実績で内数

後送等業務進捗状況 (サマープ)

項 目	進捗状況	評 価	備 考
復興支援 活動の整理	100%	終了	
宿営地の 整理	イラク陸軍に対する宿営地移譲式典実施	終了	
物品の不要 決定処置	100% 986/986	終了	
コンテナ 詰め	100% 60,122/60,122	終了	
コンテナ 輸送	100% 337/337	終了	
人員輸送	100% 570/570	終了	

上段:増人員数
下段:減人員数

人員現況

区分	所属人員	サマーフ			クウェート			バグダット			バスラ			キヤグ・スハヤ			タリル			その他			国外		国内		(備考) 増減の内容及び 増減人員の变化
		定員	増減人員	所在人員	定員	増減人員	所在人員	定員	増減人員	所在人員	定員	増減人員	所在人員	定員	増減人員	所在人員	定員	増減人員	所在人員	出陣人員(増上)	増減人員	所在人員	増減人員(増上)	所在人員			
10次支援隊	481	481	-	0	0	476	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	476	0	0	4	先行班24名(KW) 先行班2名(タリル) 第1班39名(KW) 第2班107名(KW) 第3班28名(KW) 第4班82名(KW) 第5班176名(タリル→KW) (KW)	
10次警務 派遣隊	10	10	-	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	先行班2名(KW) 2名(タリル) 第2班2名(KW) 第3班2名(KW) 第5班4名(タリル→KW)	
業務支援隊 5次要員	111	74	-	0	25	101	5	5	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0	1	先行班6名(KW) 3名(タリル) 第1班7名(KW) 第2班10名(KW) 第3班7名(KW) 第4班16名(KW) 第5班27名(タリル→KW) 中船隻2名(KW) (KW)	
後送業務隊	105	10	-	0	95	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	105	0	0	0	先行班5名(タリル) 第3班2名(KW) 第5班12名(タリル→KW)	
合計	707	575	-	0	120	692	5	5	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	701	0	0	5		

※ クウェートにはクウェート大使館LO1名を含む
TV電話は、7月9日をもって使用中止

1159-1012712

クウェートの治安状況等 (7月17日)

区分	内容	備考
ク ウ エ ー ト の 治 安 状 況 等	1 倉庫・宿泊場所等活動地域:異常なし。	N/C
	2 後送コンボイに与える影響 (1) MSRタンパ上、特にクウェートからタリル空港までの経路上、後送コンボイに対するIED攻撃の可能性があり、業者に警戒を促す必要がある。 (2) クウェート国内における後送コンボイに対する小火器による攻撃の可能性は否定できず、業者に注意を促す必要がある。	N/C
	3 クウェート国内での車両運行に及ぼす影響 交通事故は、ほぼ連日主要国道で発生している事から車両運行時、特に次の点に注意 (1) R6, R40, R80上の速度超過による追突事故、突発的な歩行者の横断 (2) 前方走行するトラックのバーストによるタイヤの飛来(7月以降は、道路の高温に加え、ほとんどのトラックは再生タイヤ着用のため、タイヤはバーストしやすい状況) (3) ロータリー交差点の進入・進出及び測道から本線への進入時 (4) 砂塵及び砂嵐発生時、視界不良。安全速度の厳守	N/C
	4 宿泊場所及びKGL倉庫等での活動に及ぼす影響 クウェート全土で反米勢力がテロを実行する可能性は排除できず、宿泊場所及びKGL倉庫等への移動間は警戒する必要がある。	N/C

区分	内容	備考
MSR・ASR等	1 MSR・ASR脅威情報 ①ASRジャクソン [REDACTED] ②ASRポストン [REDACTED]	N/C
	2 MSRタンバ これまでIED事案・カージャック等が毎月発生している点から、特にタリル空港周辺及びクウェートまでの南部地域脅威度は高いという認識	N/C
気象	1 天気:晴れ、風塵 2 気温 :1100現在の気温(直射日光下):51.5℃(昨日比-0.6℃) :0700現在の気温(直射日光下):42.5℃(昨日比+0.4℃)	7/17更新

18年7月18日(火)の活動予定

群主力	後送業務隊
<ul style="list-style-type: none"> ・防衛庁長官視察受け ・帰国第1波クールダウン ・装備品返納 ・検数・検量 ・クウェート分遣班、主力に合流 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプバージニアにおける弾薬コンテナの作成(3本) ・10次群個人コンテナの検数・検量支援(帰国第2波) ・分遣班移動支援 ・群帰国第1波出国手続き ・キャンプバージニアにおける長官視察支援

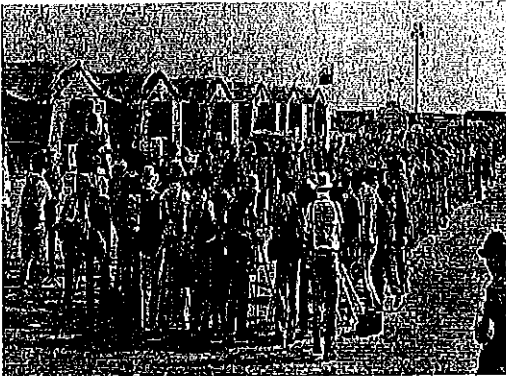
RSU活動状況 (7月17日)



群離脱第5波のアリアルサレム基地での出迎え



本日で終了したナビスタ通過支援



キャンプバージニアにおける報道対応



大使公邸夕食会

バグダッド日誌 (7月17日)

○ 1/600 ～～海の日に寄せて～～

今次派遣に際し、海上自衛官だからと多くの方に心配していただいた。確かに陸軍キャンプでの生活は初めてであったが、これでも自衛官の端くれ、さほど苦になるものではなかった。ただ、言葉については日本語の知識不足が影響し、終始苦労した。連隊、大隊、といわれても相場観がない。そのためRegimentだBattalionだと言われてもイメージがわかず、なかなか覚えられないのである。地方隊や航空群について陸自隊員がイメージし辛いのも同様であろうか。恥ずかしい話、砲と迫の違いもよくわからず、迫撃砲は砲なのか迫なのかと悩んでいた。ここまでくると、語学の素養とは別次元である。自衛官として猛省させられた次第である。

他方、海上自衛官でよかったと思うこともあった。というのもバグダッドで話しかけてくる米軍人の多くは日本に勤務したことがあるという。陸軍ならば沖繩、座間、海軍は横須賀、厚木、空軍は三沢、海兵隊は沖繩、岩国といずれもこれまでの勤務地あるいはその近傍である。そのため、いわゆるローカルな話で親近感が増し、会話が弾むことも多かった。私自身、遠洋航海は勿論、月並みではあるがこれまで護衛艦で1回、航空隊で1回、計2回の派米訓練に参加し、ハワイ、サンディエゴへの寄港や、ウィッピーアイランド基地やカネオヘ海兵隊基地に滞在させてもらった。日米候補生交換行事では呉から横須賀まで米艦艇に乗艦し操艦訓練等をさせてもらったり、沖縄勤務の時には2週間に亘って原子力潜水艦に乗艦し、対潜訓練を研修させてもらったりもした。日米共同使用の厚木基地で2年間、渉外幕僚として勤務もした。特にこの勤務は9.11テロを経験し、それまでの自衛隊の警備に関する考えが一転、基地運用が全て対テロのフィルターを通して行われるようになったことを目の当たりにした。今、こうしてバグダッドに立っていると、このときに経験が、今に繋がる大きな時代の流れの中にあっただと考えている。このように、私の勤務歴において学生期間を除いては常に米軍と隣り合わせで勤務し、沢山の経験をさせてもらった。こうした廻り合わせは海上自衛官の方が多いのではと考えている。そして、これらの貴重な経験に感謝している。

さて、今次派遣では陸自部隊の一員として勤務した。これによって、これまで漠然と捉えていた陸上自衛隊がより身近に、具体的な組織として私の意識に映るようになってきた。残念ながら同じサマーウの釜の飯を食べることはできなかったが、600分の1の末席を汚すことが許され感謝している。そして自分なりに仲間意識も芽生えている。時あたかも、自衛隊は統合運用態勢に移行し、より機動的、効率的に部隊運用がなされるようになった。今後は、陸海空が協同して任務を遂行することが当然となった。その際、親しく話し掛けてくる米軍人に代わり、今度は私が「イラクに派遣されたことがある」と陸自隊員に話し掛ける番であると考えている。勿論、「自分は〇次群だった」という答えが返ってくることを楽しみにしている。